



みみより

69

発行日/2023年10月24日

編集・発行/堺市立健康福祉プラザ

視覚・聴覚障害者センター

聴覚障害者情報提供施設

〒590-0808 堺区旭ヶ丘中町4-3-1

Tel:072-275-5024 Fax:072-243-2222

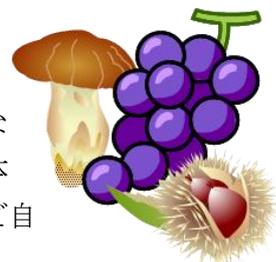
Mail:mimi@sakai-kfp.info

ごあいさつ

楳 希代見

9月末まで日差しの強い夏が続いていましたが、10月に入ると一転、夕方には肌寒ささえ感じる気候になりました。年々、秋が短くなっているように感じます。それでも、やはり秋は読書やスポーツ、学習とさまざまなことに取り組みやすい季節です。私もこの間、いくつかの研修会に参加しました。中でも軟骨伝導補聴器、会話を視覚化する機器など興味深いものが多数あり、「独立起業型」ではなく大学や企業で聴覚障害者支援の取り組みが増えていることが印象的でした。少しでも多くの情報をキャッチして、みなさまにお届けできればと思います。

そして、秋は実りの季節でもあります。おいしい果物や野菜など、味覚だけでなく視覚や嗅覚も満たしてくれるものが多く出回っています。旬のものを楽しみ、体はもちろん、心も健やかに保ちたいものです。季節の変わり目、どうぞみなさまご自愛ください。



〔退職のごあいさつ：宮脇 香 9月末で退職となりました〕

1年半、短い間でしたが、お世話になりました。主に要約筆記の派遣・研修を担当しました。迷うこと、悩むこともありました。みなさんにたくさん助けていただきました。短い間でしたが、自身とても成長できた期間となりました。ありがとうございました。

〔新任のごあいさつ：徳谷 令子 11月から非常勤職員として勤務します〕

登録者の皆さまには、いつもお世話になっております。この度、11月より前任の宮脇に代わりまして、講演派遣、要約筆記の講座や研修等を担当させて頂くことになりました徳谷です。2020年よりプラザで主に報告書関係の仕事と登録者として要約筆記の派遣も行かせて頂いていた関係で、何度かお会いしている方、メールでやり取りをしたことがある方もいらっしゃるかもしれませんが…初めましての方もよろしくお願ひいたします。

今回、プラザよりお話をいただき、前任と比べ、まだまだ経験不足で頼りない部分も多々あり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、貴重な機会をいただいたので、精一杯業務に励んでまいりますので、みなさまご協力のほどよろしくお願ひいたします。研修等でみなさまにお会いできるのを楽しみにしています。



〔改めてのごあいさつ：中間 洋子 短期臨時職員として週2回勤務しています〕

以前から、利用者として大変お世話になっていました、ここプラザにてアルバイトとして入らせていただいています、中間と申します。

職員になってみて初めて気づくこともあり、大変勉強させていただいています。利用者、職員、両方の視点から、ろう・難聴者がもっと暮らしやすく便利になるようお手伝いさせてもらえたら嬉しいです。全くの力不足で申し訳ない気持ちですが、勉強したいと思います。利用者、支援者の皆さま、いろいろとご指導ください。週に2日だけですが、どうぞよろしくお願ひします。



開催事業報告



《みみサロン》

読者のみなさんもお存じのことと思いますが、毎年、字幕制作ボランティアチーム「さくら」のご協力をいただいて字幕付き映画・番組の製作をしています。今年度2回目の字幕付き映画体験会を9月16日(土)の午後2時より開催しました。作品は「あん」。樹木希林さんの主演最後の映画(2015年)で、美味しいあんの作り方を知っている老女(樹木希林さん)を中心に、出会いを通じて生きる意味を考えさせられる映画です。前回よりも参加者が数名増えました。



右上の写真は、映画終了後、字幕についてのアンケートを記入している様子です。ご協力ありがとうございます。今後もより見やすい、わかりやすい字幕を作成していきます。ご都合つかずに観られなかった方、ビデオライブラリーで貸出していますので、ぜひご利用ください。

【参加者の感想】

- ・今日の映画は、とても感動しました。ありがとうございます。
- ・きこえにくくなって、どうしようと思っておりましたが、今回の体験会で元気をもらいました。
- ・最後の場面 スタッフ、出演者などの名前が出ていましたが、ぼやけて読めませんでした。

【字幕をつけてほしい番組・ドラマ・映画】

- ・昭和の頃の字幕のないドラマ Gメン7 5、太陽にほえろ、西部警察など
- ・怪談、ミステリー、サスペンスなど

※みなさまからのご要望もお待ちしております。



《もじサロン（筆談会・わいわいおしゃべり会）》



9月は6名でおしゃべりしました。きこえ方がそれぞれ違うため、まず、この日のコミュニケーション方法をどうするか、参加者全員で話し合いました。受信方法は何か、発信方法は何かをそれぞれ確認し、全員が使える方法である筆談で進めることに決めました。

各自、ホワイトボードを使つての筆談会。きこえづらくなったことで人づきあいに変化するの、その変化にどう対応するか、他の方の方法や体験談を共有しました。また、テレビの字幕も話題に上りました。最近は大いぐ増えてきてありがたい限りですが、まだ未対応の番組もあります。せめて公共放送だけでも漏れることなくつけてもらいたい、という話になりました。実際に要望を伝えて字幕を付けてくれるようになった番組もあるとの経験談もありました。

自分には何が必要なのか、具体的に知ることはなかなか難しいことですが、他の方の意見や、どんな工夫をしているのかも伺うことができました。伝えないと相手はわからなくて当たり前。日本人の特徴である「察する文化」は素晴らしいことですが、相手が察してくれるのを待っているだけではなく、積極的に、そして、一度伝えただけでは忘れてしまうこともあるので継続的に伝えていくことが大切というお話も出ました。

10月は1名だけだったので、職員ときこえのことや手話の学習について筆談しました。

もじサロンは毎月開催しています。お申し込みが1名でも開催しますので、遠慮なくご参加ください。

《難聴者コミュニケーション教室》

8月17日から、毎週木曜日に開催しています。定員に空きがあったため、9月からは修了生の方にもお声かけをし、全8名で学習しています。今年度は聴覚障害者福祉に関する制度やサービスを紹介するコーナーも設けました。身体障害者手帳が取れない方でも利用できるサービスは増えてきましたが、説明してもらう機会が少ないですね。コミュニケーション教室をきっかけに、おしゃべりの楽しさを体感していただくとともに、さまざまな情報をお届けできればと思っています。

デフリンピックを応援しよう！！

コロナ禍の中行われた 2020 東京オリンピック・パラリンピックから 2 年。パリ 2024 オリンピック・パラリンピックに向け、予選となる大会が開催されています。報道で取り上げられることもあり、目にすることも増えてきましたが、きこえない人たちのオリンピックがあることはご存知でしょうか？

きこえない人たちがスポーツの大会に参加する際、スタートの合図や審判の笛の音、選手呼び出しの案内等、さまざまな工夫が必要です。きこえない人のことを英語でデフ (Deaf) と表現することから、「デフ」+「オリンピック」=「デフリンピック」という大会名称が生まれました。オリンピックと同様、4年に1回開催されており、2025年の大会はここ日本、東京での開催です。

9月3日には、大会エンブレムが決定しました。筑波技術大学の学生さんがデザイン案を作製してきたのですが、3つの最終候補案から都内中高生たちが投票して決定しました。人々のつながりを意味する「輪」ときこえない人の集団でシンボルとなる「手」を表しています。デフリンピックを通して協議と話題にふれ、互いの交流やコミュニティーが「輪」のようにつながった時には、新たな未来の花が咲いていることを表現しているのだそうです。桜の花弁をモチーフとし、オリンピックカラーを取り入れたとっても素敵なデザインですね。



TOKYO 2025

25TH SUMMER DEAFLYMPICS

↑東京 2025 デフリンピック大会
エンブレム

大会は 2025 年 11 月 15 日～26 日の 12 日間。70～80 の国・地域から約 3 千人の選手が参加し、21 競技が行われます。詳細はポータルサイトでご覧いただけます。また、3月の「みみサロン」でもデフリンピックをテーマにする予定です。みんなで一緒に応援しましょう！



ポータルサイトへ

「合理的配慮」の提供が義務化されます

「合理的配慮」とは、障害のある人の困りごとや社会的障壁を取り除くために、周囲と話し合い、環境調整をすることです。きこえない、きこえにくい人であれば、きこえる人と話をするとき、あるいは講演会等に参加するときは、手話通訳や要約筆記、ヒアリングループなどを主催者(話をする相手側)が用意することが合理的配慮の提供にあたります。

きこえる人が「きこえない体験」をするのは難しいこともあり、きこえない・きこえにくいという障害はとてもわかりにくいです。「きこえないなら筆談すればいい」、「口を大きく開けて話せばいい」と思われがちですが、「手話が必要」、「大きな文字が必要」、「補聴器で聴きたい」など、一人ひとり、必要な配慮は違います。どんな環境を用意してもらえば参加しやすくなるのかを自分で知っておくことも大切ですし、それを相手に伝える力も必要になってきます。

2022年(令和3年)に障害者差別解消法が改正され、2024年(令和6年)4月1日からは合理的配慮の提供義務は行政だけでなく、民間事業者、つまり企業や福祉事業所等も対象となります。相手と対話し、実施に伴う負担が過重でない範囲でお互いに何ができるのかを話し合っていくことで、相互理解も深まります。合理的配慮への第一歩として、建設的な話し合いを大切にしたいものです。

センターでも補聴機器やアプリの体験が可能です。必要な配慮を具体化する一助となればと思います。事前に日時をご予約の上、お越しください。



手話奉仕員・通訳者養成講座

フォローアップ講座もスタート

春の手話講座は無事終了。受講された方は、もっと手話を学びたいと意欲を持ち、来年度の手話通訳者をめざす養成講座を引き続き受講してほしいと思っています。現在は、秋の市民向け講座に向けて準備中。11月から開講します。

要約筆記者養成講座

実践的な学習が始まりました

10月に入り、チームワークの学習が始まりました。実技・演習が増えています。要約筆記の醍醐味を味わえる時期でもあります。座学で学んだ理念を意識しつつ、一人で書く力を培っていきましょう。がんばれ！受講生のみなさん！

センター(聴覚)の行事



※現在、すべての行事は事前申込制になっています。

11月 9日(木) 11:00~12:30

もじサロン(筆談会)

11月 18日(土) 14:00~16:00

みみサロン

「フランスと日本文化の違い」

12月 8日(木) 13:30~16:30

補聴器相談(お一人50分)

12月 14日(木) 14:00~16:00

もじサロン(わいわいおしゃべり会)

12月9日(土)は障害者週間フェスティバル×堺市手話言語・障害者のコミュニケーション条例普及イベントです。手話での絵本の読みきかせのほか、補助犬の紹介等を行います。お申し込み不要です。ご都合の良い方はぜひお越しください。お待ちしております。



センター(聴覚)の公式LINE登録はこちら→
月2回程度、情報をお届けしています。



きこえる方はご遠慮ください。

ビデオライブラリーのおすすめ

「今日から俺は！！ スペシャル」

今年の誕生日は女の子と過ごしたいと願う今井は、相変わらずモテない生活を送っていました。ある日、道端で不思議な老婆に声を掛けられ、その後、今井は驚くほど女性にモテる男になっていました。三橋(みつはし)はモテる今井が気に入らず、嫌がらせしますが…。

「世界遺産もう1度見たい！ 世界遺産ベスト10」

放送開始から25年目を迎える『世界遺産』。これまで放送した番組の中から視聴率の高かったものを選び出し、視聴者1,000人にアンケートを行いました。

そして『もう1度見たい！世界遺産』を得票数でランキング。ベスト10に選ばれたのは、観光地としても人気の都市や壮大なスケールの大自然、そして火山地帯など。臨場感あふれるダイナミックな映像で紹介します。



頑張っています 手話通訳・要約筆記登録者

実施済

- 登録者合同研修：10/7
- 手話通訳者研修：11/16

- 要約筆記者実技研修(PC)「全体投影」：11/14
- 手話通訳者研修「事例検討」：11/16
- 要約筆記者研修「経験交流会」：12/21

事業状況

		手話通訳		要約筆記		ライブラリー	
		個人	講演	個人	講演	利用者数	貸出数
8月	派遣数	195件	12件	4件	5件	6人	30本
	派遣人数	203人	22人	10人	20人	新規登録者：0人	
9月	派遣数	224件	19件	15件	7件	6人	34本
	派遣人数	239人	32人	28人	26人	新規登録者：0人	

ご協力ありがとうございました

